

執筆要領

1. 投稿の際には、本会所定の原稿表紙に必要事項を記入する。また本文、図はそれぞれ所定の原稿用紙および図面原稿用紙を用いる。
2. 「寄稿区分」に示す原稿のページ制限を厳守する。
原稿枚数には表、図、写真、題目、英文要旨などすべてを含みます。字数換算は22項を参照のこと。
3. 表、図、写真は本文中に挿入せず、本文原稿右欄外にその挿入箇所を記入する。表、図、写真には右下隅に著者名を記入する。表は原稿用紙またはA4判の用紙に整然と書く。
4. 写真は原寸印刷を原則とするので、必要最小の大きさとし、枚数にかかわらず横65mmまたは130mm、縦180mm以内とする。倍率または標準寸法を記入しA4版の厚手の用紙に添付する。
5. 原稿は黒インキ又は黒ボールペン書きとする。
6. 表題は簡潔で、しかも本文の内容を適切に表現するものでなければならない。(表2参照) 連報形式は避ける。
7. 文章は平易な口語体とし、漢字は特殊な専門用語のほかは常用漢字表案(国語審議会報告)の漢字を用い、かなは新かなづかいによる。(漢字の用い方の例を表4に示す)
8. 英文要旨は、その論文の目的、方法、重要な結果などを簡潔明確にまとめ、タイプ用紙にダブルスペースでタイプ打ちとする。
9. 章、節、項、小見出しの記号は原則として下記の要領に従って表記する。

章	1	2	3
節	1・1	1・2	1・3
項	1・1・1	1・1・2	1・1・3
小見出し	(1)	(2)	(3)
10. 単位は原則としてSI, MKSまたはCGS単位系を用いる。(単位の略記号は表1, JIS Z 8201-56 数学記号, JIS Z 8202-78 量記号, 単位記号, JIS Z 8203-78 国際単位系(SI)及びその使い方を参照する)
11. 周知でない術語や装置などについては脚注などによりわかりやすく説明する。(表2参照)
12. 外国語の固有名詞および訳語が確定していない外国語の術語は原則として原語で書くが、周知のものはかな書きとする。なお必要な場合は原語を書き添える。元素名、合金名、化合物名は化学名あるいは化学記号によって適当に示す。(表2参照)
13. 英字の大文字、小文字で混同しやすいものにはⒶⓐ, ギリシャ文字にはⓀ, 添字には上ツキ, 下ツキを傍記(いずれも朱記)する。
間違いやすい文字, 記号例……C, K, O, P, S, ZなどのⒶⓐ
$$a, d \text{ と } \alpha; k \text{ と } \kappa; n \text{ と } \eta; 0 \text{ と } 0 \text{ (ゼロ) と } \circ \text{ (マル)}$$
$$r \text{ と } \gamma; u \text{ と } \mu; v \text{ と } \nu; w \text{ と } \omega; x, \chi \text{ と } \times \text{ (カケ印); } \triangle \text{ (三角) と } \Delta$$
また、特別の場合以外は原則として数式、単位などのイタリック、ゴシックの指定は編集委員会で行う。
14. 数式は原則として $\frac{a}{b}$, $\frac{a+b}{c+d}$ のように書くが簡単な数式は a/b , $(a+b)/(c+d)$ のように1行に書く。
15. 数学記号が繰り返し使用される場合の記号説明は本文末に一括する。周知でない術語は英文を付記する。
16. 年度の表し方は本年あるいは、昨年などとせず、必ず昭和55年あるいは1980年などとはっきり記述する。
17. 表、図、写真の説明は英文とし(技術資料、講義、講演、解説はこの限りではない)、表、図、写真の意味が本文を読まなくとも理解できるように書く。
18. 図は文字、記号も含め、製版に直接使用できるように刷り上り時の1.5ないし2倍の大きさにトレースをする。トレースにあたっては太線0.4mm~0.7mm, 細線0.2mm~0.5mm程度が標準である。フリーハ